

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまづきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

Nice to meet you

セント・セバスチャン小学校 (St. Sebastian Primary School)
コリン・ラウス校長 (Mr Collin Rouse)

LSA (Learning Support Assistant) を効果的に活用している公立の学校である St. Sebastian 校を 2005 年 3 月に訪問しました。

学校はロンドンから急行で約一時間のところにあります。全英オープンが行われるサンニングデイル・ゴルフ場、競馬場で有名なアスコット、英国ディスレクシア協会の事務局のあるレディング (Reading と書きます) を通った先にあります。周りの雰囲気は日本で言えば軽井沢のような感じでしょうか？ロンドンへの通勤圏内にあり、イギリスのシリコンバレーと呼ばれ中産階級の子どもの通う学校だという説明を受けました。

小さくて、かわいらしく、こじんまりとした学校です。教会の援助を受けている公立の学校で財務は公的基金からですが人材育成などは教会の援助で行うそうです。一歩中に足を踏み入れると掲示物がカラフルで明るい印象を受けます。しかし、物が雑然とおいてあり、日本のような堅苦しい規則はないようです。

教室を私達が見て歩いて驚いたのは、大人の数が多くことです。校長先生以外は全員女性です。対応してくれた生徒達はのびのびして、はきはきしています。上級生は下級生のことを良く知っていて面倒を見えています。

さて、入り口に近い校長室でラウスさんにお話を伺いました。私達の描いていたイメージのスーツにネクタイ姿とはかけ離れたジャージ姿で絶えずにこやかに質問に答えてくださいました。お話の途中でも LSA やら SENCO



コリン・ラウス校長

怠けてなんかない！

ディスレクシア ~読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち。



10人の親子のインタビューを通してディスレクシア克服への道のりと生き方を模索する姿を紹介。ひと言ひと言に胸がしめつけられるが、希望を持たたときの晴れやかさは格別だ。専門機関での研究や教育・治療の現場も徹底取材。

品川裕香・著

- 四六判・ソフトカバー
- 256ページ
- 定価1,365円 (税込)

上野一彦氏

(東京学芸大学教授・日本LD学会会長)

すいせん！



〒112-0005 東京都文京区水道1-9-2 TEL03-3812-9131
岩崎書店HP ●http://www.iwasakishoten.co.jp

ありがとう、絵本 フォルカーせんせい

バトリシア・ボラッコ・作・絵
香咲弥須子・訳

トリシヤは絵を描くことが大好きでも文字が読めない。5年生になつて……LD(学習障害)児の心のさけびと感動の出会いを描く絵本。



- A4変型判 ●40ページ
- 定価1,470円 (税込)

(Special Educational Needs Coordinator) や生徒が気軽に出入りしています。

ラウスさんは教育者というよりはビジネスマンの面でも必要とされていて、対外的な折衝、地域との関係、予算、人事などを一手に引き受けていました。少ない予算の中で高い効果を挙げるためにLSAを活用することに着目して採用や人材育成を手がけています。物腰は柔らかいのですが、決断力があって切れ者であると感じさせました。

教師、秘書、LSAや保護者とフラットでオープンな関係を持っていると感じました。IEP(個別指導計画)を見せていただきましたが、大変客観的で善悪を基本に書くのではなく、具体的に担任だけではなく保護者もLSAも関わるものが出来ていました。

教室の中ではディスレクシアの子供たちは溶け込んでいて、分からないほどでした。また、特別なニーズの中には出来すぎる子どもへの対応も考えられていました。

こちらが日本では1クラス40名くらいいて、小学生は子どもだけで登下校をする話をしたら仰天していました。

この学力的には全国でも高い評価を得ている学校のあり方はきめ細かな指導、コミュニケーションの大切さを感じさせていただきました。

(文責：藤堂)



St. Sebastian 小学校

ディスレクシアの目で見ると研修旅行中の困難

柴田 章弘(事務局)

日常生活にとりわけ困難を感じることはなかったが、非日常の空間に突然、放り込まれるとき、思わぬ行動を自然にとってしまう。まず、成田空港に着くまでに、スカイライナーの車内で見ていたチェックイン・カウンターまでの道順が書いてある紙を紛失してしまった。やっとたどり着いて、荷物チェックで検問を受けて、ヴァージン・アトランティック航空の列に並んでいると、みんな大きなスーツケースを持っている。不思議だと思いながらも並んでいると、「荷物、お忘れのお客さまいらっしゃいませんか」と大声で叫びながら、黒い車付きリュック型スーツケースを引き、所有者を探していた。「ドジな人もいるもんだ」と、ふとその若い女性係員を見ると自分の自宅から引いてきたスーツケースだった。荷物検査の段階で、かつてに荷物のみチェックインしたものと勘違いしていた。平謝りして、荷物を受け取ったときは冷や汗をかいてしまった。日本でなかったら、盗難に遭っても不思議はなかった。

次に、パスポートの安全性を考え、ベルト付け型のケースを使ったが、頑丈な分、取扱いに手間どる。ただでさえ手先が不器用(ディスプラクシア)なのに、普段の数倍の苦痛を感じた。出国・搭乗・ボディチェックのたびごと、パスポートを出し入れしているうちに、しばしば他の乗客の流れを止めてしまった。後で考えてみると、そのまま出したまま、持って歩けばよかったのだが、トラブルに巻き込まれている最中、そこまで知恵が回らなかった。そのうえ、厚着をしていたから余計困難だった。ただ、飛行機に乗るまでに精神的な動揺は予想をはるかに越えていた。ディスレクシアの症状は焦れば焦るほどはっきり露見するものだ。

トラブルは続くものだ。搭乗する予定の飛行機は約2時間、出発が遅れた。同行する方々と喫茶店で時間を潰したところまでは良かった。支払いを済ませ、搭乗口に歩みだして、しばらくすると、首がいやに軽いことに気づいた。

デジカメを先ほどの喫茶店で、テーブル上に置き忘れたのだった。慌てて、戻り、レジの若い女性に尋ねると、忘れ物を預かっていた。ここでも深く頭を下げ、愛機を返していただいた。三週間前、自分の住んでいるアパートに泥棒が入り、デジカメを盗まれた。その直後、新品を買ったばかりであった。この日、二度目の冷や汗だった。

やっと飛行機に搭乗したのは良いが、今度は目の前にある個人ビデオディスプレイのコントローラーの使い方が理解出来ない。飛行機が水平飛行になるときに使用法の解説ビデオ映像が流されたが、全然頭に入っていない。この時、子どものころからの悪いくせが出てきた。四色(赤、青、黄、緑)のきれいなボタンが付いていたので、これを何にも考えずに無意識に押ししてしまった。両隣の乗客は楽しそうに映画を見始めている。ところが、いつまで経っても、自分の目だけディスプレイ映像は横線が走っている。「どこか押せば、見られるに違いない」と、焦ってカチカチとボタンを押し続けた。でも、事態は一向に進展しなかった。一時間ほど奮闘していると、隣に座っている男性が見かねて、助けてくれた。その方は私からコントローラーを受け取ると、ほんの数操作で設定を元に戻してしまった。お礼を言ってから、ふと気づくと、座席の目の前にある網にガイドブックが入っていて、本文中に日本語で「使い方の説明」が載せてあった。「初めから見ればよかった」。周りが簡単に操作しているので、「自分も出来ないわけではない」と見栄を張ったのが失敗だった。これで、研修前に「LD疑似体験」を受けたような気分になった。周囲の人々が出来て、最後まで自分が出来ないという晒しものになったように動揺する。「こんな簡単なもの、使えないの……! 頭大丈夫!」と機内の他乗客から驚嘆の声を浴びせられたかのような感覚だった。自分のディスレクシア症状はかなり重いと確信した瞬間でもあった。

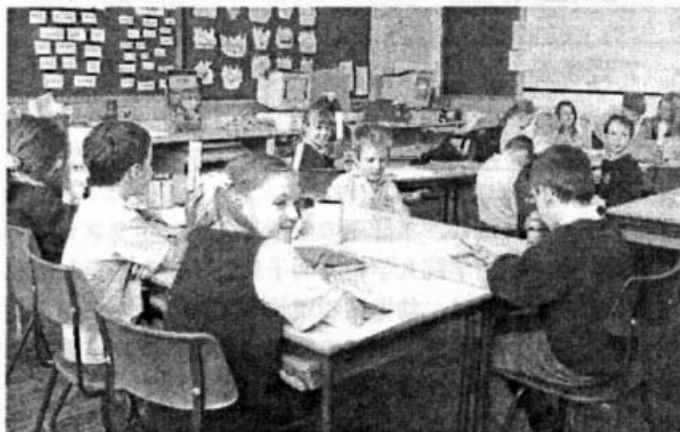
イギリス視察報告

—大和日英教育基金助成事業—

ディスレクシアのサポート先進国であるイギリスを視察してきましたので、ご報告いたします。この視察は、わが国における特別支援教育が始まろうとしており、東京都港区では小中学校に学習支援員としてLSA(ラーニング・サポート・アシスタント)と同様な人材を配置することとなり、学習支援員人材養成をEDGEが担うことから、その参考とするため実施したものです。イギリスにおけるLSAの養成内容を調査し、その現場を見学し、サポートツールの収集を行うことが出来ました。また、「愛をはこぶ人キャンペーン」でおなじみのマッケンジー・ソープ画伯と意見交換を行いました。

2005年3月14日～19日にロンドン滞在、及び南部の都市ブライトンを訪ねました。メンバーは会長の藤堂をはじめとする事務局及び会員の5名でした。

まず、在英EDGE会員の館野智恵子さんからLSAの養



St. Sebastian 小学校の教室

成についてお話をうかがいました。館野さんは Helen Arkel Dyslexia Center という民間機関でLSAの資格を習得しました。講義で関係する法律や専門家との関係を始めとする専門知識を学習しますが、実習が特に重要視され、小学校に派遣されて実際に児童のサポートを行いました。子供が関心を持つような教材の工夫と、クラス担任の教師とのコミュニケーションが大切との事でした。

LSAの現場見学としてロンドン郊外の St. Sebastian's Primary School を訪問しました。この内容は「Nice to Meet You」でご紹介しています。生徒数120名の小さな小学校でしたが、教室はカラフルで、先生、LSA、ボランティアと何人もの大人が子供と入り混じり、フラットな雰囲気日本ではずいぶん様子が違っているのが印象的でした。

ディスレクシアの専門家として世界的に活躍されている Ian Smythe 博士より、ディスレクシアの特徴やその要因、アセスメント(査定)の方法等につき講義を受けました。アセスメントは、問題に対する子供の反応により、強みと弱み、現在の能力、進捗の遅れ、間違いのパターン等を明確にし、生徒の学習スタイル、興味ある分野と動機付け等の必要な援助に結びつけるものです。

このためのツールを博士のご好意により提供を受けました。今後、日本語化と日本での適用を進める予定です。

ソープ画伯とはドーバー海峡に面したリゾート地ブライトンで面会し、2007年の実施に向けた世界の子供の絵画展につき意見交換を行いました。

(文責：内田)



Ian 博士の講義風景

平成16年度 港区パートナーズ基金助成事業発表会

3月9日 至麻布区民センター

「これからの港区における特別支援教育推進のために」 ～みんな違ってみんないい～

2004年9月から3月までNPO法人EDGEはNPO法人テクノシップと港区の保健福祉部ならびに教育委員会と協働で特別支援教育の推進に向けての仕組み作り検討委員会を設け検討を重ねてきました。

3月9日にはそれぞれのNPOの活動と検討委員会の内容を報告する発表会を開催しました。教育長をはじめ港区内のほとんどの公立学校の校長先生や保護者が参集し有意義な発表会となりました。

～～テクノシップの取組み～～

NPO 法人テクノシップ理事長

児嶋 みち子

テクノシップは、平成5年以来、学校や社会生活につまづきを感じているお子さん達の学習や就労支援を行ない、現在、みなとコミュニティハウスを拠点にして、就労に足る資質を養う教室活動に特に力を入れているNPO法人です。

数年前、自閉的な傾向の5年生のお子さんが普通学級の中でお友達と上手くなじめないという会員のお母さんの悩みから、当時の富岡理事長が校長先生にお願いして、ひとりの学生ボランティアを学校に紹介させていただきました。それは、たった15分の休み時間だけの介入でしたが、回を重ねると、その子も、まわりの普通の子も態度が変わってきて、良い結果が得られました。この経験からスクールボランティアの必要性が認められ、また、少しでも発達障害児の知識を持ったボランティアに介入して欲しいという親の願いも相まって、平成15年度と16年度に、港区NPO活動助成事業として「発達障害児・者のためのボランティア養成講座」を開講しました。

平成15年度は「あなたもスクールボランティアになれる！」と銘打って、「発達障害概論」「小中学校の現状」「発達障害医学」「行動面での対応の基礎」「ソーシャルスキルと教科面での指導」および「ボランティア全般について」専門の先生方から学びました。詳しい内容は、講義録を発行しておりますので、テクノシップまでご連絡下さい。平成16年度は、「生涯にわたる支援とは」をメインテーマに致しました。

まずプレ講座として実習を兼ねて、夏休みに障害児のためのデイキャンプを5日間、音楽・遊び・創作・運動・調

理のテーマで実施し、本講座の1回目では、ボランティア体験談から、明治学院大学緒方明子教授にまとめをして頂きました。2回目は、幼児期の現状と支援について、こども療育「パオ」と幼稚園からの報告。まとめは日本橋学館大学長澤泰子教授。3回目は、学齢期について、港区の現状と支援について教育委員会からと港区以外の取組みについて3人の現場の先生に講義して頂きました。4回目は、青年期以降の現状と支援について、明治学院大学金子健教授の講演につづき、支援組織や企業の就労現場の方々によるパネルディスカッションを行いました。

2年にわたる講座で百数十名の受講生を迎え、発達障害児への理解と啓発が進んだ事も大きな成果でした。さらに修了生は、区内の小中学校で8名が介助員や学校支援ボランティアとして活躍し、効果が認められています。

今後の課題として、ボランティアの育成・確保、環境の整備をはじめとした仕組みづくり、更に、より良い支援のためにはそのお子さんについてよく知る事が大切で、その為の共有できる情報ファイル「成長手帳」の作成を提言しました。成長手帳は親が管理し、必要に応じたファイルを見せる事により、新しい所へ行く度に一から生育歴を説明するという労苦から保護者は解放され、支援者側にとっては詳しい情報が一目にして得られるという双方のメリットがあり支援機関の連携も取り易くなります。

これらの事が今後整備され、特別支援教育が全ての子どもにとっての良い制度として推進される事を、テクノシップは切に望み、区の個別支援室設置にも協働して参ります。

連絡先：テクノシップ (TEL 03-3478-8565)

「港区との協働事業本格稼動」

いよいよ2005年10月より、EDGEと港区との協働事業が稼動開始します。事業の骨子がまとまりましたので、皆様にお知らせいたします。

2005年に実施する事業

2005年は、以下の2つの事業を中心に活動を行ってまいります。これらの事業は、港区との協働事業で、こども支援センター内に設置される個別支援室です。ディスレクシアをはじめとする特別な教育的ニーズをもった子ども達に対して、まず始めに出来る事業として位置づけています。

1 相談事業

明治学院大学の協力により、特別な教育的ニーズをもった子ども達に関するアセスメント・相談とアドバイスのできる相談員を養成します。

(1) アセスメント(査定)の実施

巡回相談(港区内)において教師・保護者などの相談から、特定児童のアセスメントを行う必要があると判断される時は、アセスメントを実施し、その子が有している特徴の査定を行います。これは、特別なニーズを持っている子ども達のために作成する、個別教育計画(IEP)に活用します。当初は2名の専門家育成を予定します。御興味のある方はEDGEまで御連絡下さい。

(2) 相談の実施

学習面・行動面で困難を抱える子ども達に対して、相談を行います。相談の中で必要と判断された場合、児童毎のサポート方法や目標を個別教育計画(IEP)として作成し、教師や保護者との連携したサポートをコーディネートする活動を行います。

またその際に、港区内における学習支援員(LSA)の配置に関するコーディネートを行います。

2 学習支援員(LSA)育成及び斡旋事業

(1) 学習支援員(LSA)の育成

LSAとは、ラーニング・サポート・アシスタントの略です。英国では、学級での学習のサポートのために多くの学校でLSAが活躍しています。

港区でもその制度を参考に、この制度を根付くような活動を行ってゆきます。

具体的には、LD/ADHD/高機能自閉症など、軽度の発達障害を抱える子ども達の特別な教育的ニーズに対応し、学校の教室において教師のアシスタントとして、それぞれの子どもにあった学習サポートを行う人材を育成します。本年度においては、計約40名の育成を計画しています。

(2) 学習支援員(LSA)の斡旋

育成した学習支援員(LSA)を、相談員と教師、保護者などとの間で作られる個別教育計画(IEP)に従い港区内

の学校に斡旋します。学習支援員(LSA)は学校現場で子ども達に対する学習のサポートを行います。

2005年以降の活動

上記の活動だけでなく、もっと多くの支援をEDGEとして考えています。

例えば教科書の音声化、子ども達が自分に適した教材を試して選ぶことが出来るような、ショールーム的な施設や先生などに自分の特徴を説明するのに役立つ生育手帳のようなものも、その一つとして挙げられます。

特別支援教育への取り組みは、今始まったばかりで、日本においてはどの仕組みが一番良いのかは、まだ模索段階ですが、より良い提案を行ってゆきたいと思っております。皆様からも、様々な情報やアドバイスをいただければ幸いです。

(文責：堀田)

関連事業

港区パートナーズ基金助成事業 港区との協働

「特別支援教育の推進パート2」

リソースルームと 教材開発

2005年度のパートナーズ基金の助成で表記の活動が助成されることになりました。港区の教育委員会と協働で学校で使われている教科書の音声化及びマルチメディア化を図るとともにひとりひとりのニーズにあった教材選びとその使い方について調査し、その結果を教室での対応に活用できるよう仕組を考えます。

6月9日に港区役所にて交付決定通知書の授与式がありました。7団体(基盤整備事業1、先駆的・モデル的事业4、区との協働事業2)が授与されました。ただの授与式ではなく、それぞれの団体が今回の助成金の使途と団体の目的などを説明する時間があり、その後意見交換も出来ました。それぞれの団体と連携をとっていける面が浮き彫りになり大変有意義でした。これで3期目に入る港区のNPO活動助成ですが助成を受けた団体同士の同窓会や情報交換の場、また、成果の発表の場などを是非実現しましょうという話になりました。

(文責：藤堂)

8月夏休みワークショップ

3月に開催した好評のワークショップをまたパワーアップして行います。

講師は英国在住のEDGE会員館野智恵子さんです。英国でLSA（ラーニング・サポートアシスタント）として活躍、日本人留学生の相談などに数多く乗っています。

今回は以下のスケジュールを予定しています

8月7日（日）親子のワークショップ

「記憶のしかた」

ディスレクシアの人は聴覚及び視覚の短期記憶に問題があるといわれています。ワークショップの後昼食をはさんで懇談会を予定しています。

参加費 親子で1組 6000円

8月9日（火）本人向けワークショップ

「自分を知って、受け入れて、前進するために」

15時から17時 18歳未満 参加費：500円

18時から20時 18歳以上（自分がディスレクシアだという保護者の方もどうぞ） 参加費：1000円

8月8日と10日は個別の相談を受け付けます。

詳しくはEDGE事務局まで



英語塾

英語塾の様子

昨年9月から3月まではフォニックスを中心に小学校6年生から中学校3年生までの9名のディスレクシアの生徒さんに英語を指導いたしました。“みるみるわかる”までは行かなかったものの、アルファベットが読めるようになり、看板を見て音にすることが出来るなど直接的に英語力がついたほかにも思わぬ副産物がありました。

自信がつき、学校でも自発的にクラブ活動に参加するようになった、英語だけではなくほかの教科が進むようになった、小学生だった生徒さんからは中学校の初めの英語の授業で一番できてすごく嬉しかったなどの報告を頂いています。

ただ、アメリカのオートン・ギンリンハムの英語教授法

は英語を母国語としている子どもを対象として組まれているものなので、日本では耳から音を聞きとることや音と意味をつなげることが出来ません。そこで今年はず、正しい音の聞き取りと具体物の意味などをまず体で覚えてから、英語の読み書きに入るプログラムにしています。

さて、今年6月4日に第一回目の授業をしました。自己紹介から始まり、母音の中でも短いaとiを中心にした具体的な言葉を使って出来るだけ多くの感覚を使い楽しく身につくような工夫をしています。英国人の先生の声を良く聴いて、自分も声を出しながら、動作（たとえばsitとかhit）を加えて身につけます。その後でこの「ア」という音はaと書くんだよ、という形をとっています。フォニックスに入る準備です。

7月末までは途中からでも加われますので小学6年生から中学生の方はぜひご参加ください。

助成金

EDGEは、さまざまな助成金を頂いて活動をしています。

2005年度は、以下の団体から頂きました。この場を借りて、助成を頂いた団体にはお礼を申し上げます。ディスレクシアのサポートのために、日本ではまだまだやらなくてはならないことが山積みです。今後とも皆様からのサポートをいただければ幸いです。

採用された助成金・補助金

- ・日本興亜損保（スクリーニングツールの日本語化）
- ・大和日英基金（2005年3月英国訪問 クラスルーム・サポート・アシスタントの実態調査）実施済

- ・グレートブリテンササカワ（2005年7月英国訪問 ディスレクシアに対する就労に関する調査）
- ・スカンジナビアササカワ（2005年7月スウェーデン訪問 ディスレクシアに対する就労に関する調査）
- ・港区パートナーズ基金（特別支援教育に関する教材ライブラリーの開設）

寄付

- ・国際福祉協会 I L B S（英語教室に関する機材・教材費）100万円

EDGEライブラリーのご案内

今までの活動の中で収集した書籍・雑誌・論文等の文献資料をコンピューターに入力し、ライブラリー化しました。

日本国内の専門書をはじめとして、最近では3月の英国視察で収集して参りました子ども向けの教材など、様々な資料をあわせて200冊を超える、ディスレクシア関係の資料を集めてあります。

海外の子ども向けの教材などは、バラエティーに富んでいるものが多く、見ているだけでも楽しい教材がたくさんあります。

一つの場所にそろえて閲覧できるのは、日本国内にはあまりないと思います。ご興味があれば、皆様もこのライブラリーを是非活用してください。

EDGE会員には、資料のお貸し出しも致します。また、目録もごさいますので、請求をいただければお渡しいたします。



総会のご報告

2月20日(日)EDGE事務局にて、2005年EDGE総会を開きまして無事終了したことをご報告いたします。昨年度に引き続き以下の事業を行う予定であります。特に今年は港区との協働事業がはじまり、これからの特別支援教育の良いモデルになるよう、活発な活動を行ってまいります。

a) 啓発事業

ディスレクシア啓発DVDを作成するなど、多くの人にディスレクシアを知ってもらう活動を行います。

b) サポート事業

みるみるわかる英語塾・パソコン教室などのディスレクシア向け講座

港区委託事業(アセスメント及び相談業務)

c) 研究調査事業

日本語を母国語とするディスレクシアに対する英語教育(3月に実施)

ディスレクシアの人の自立と就労支援(7月を予定)

d) ネットワーク

LD学会への出席(9月福井にて)

JDDnet(日本発達障害ネットワーク)の12月に行われる総会への出席など、さまざまな会合を通しての支援ネットワークの益々の充実

事務局の最近の活動の紹介

- 5月25日 港区受託事業の学習支援員養成のための準備委員会が開催され、カリキュラム等が決定。今後は募集等の運営準備を開始する。
静岡から女子中学生3名が来訪しLD疑似体験。
- 5月28日 社会福祉法人嬉泉主催「高機能広汎性発達障害セミナー」にて藤堂会長が講演。
- 5月31日 EDGE事務局が入居している「みなとNPOハウス」は明年3月末で退去することになっており、その後の対応につき要望書を区役所に提出。
- 6月1日 慶応女子高校でLD疑似体験。
港区パートナーズ基金にて、学習支援の教材やツール整備の助成を要望し採択された。6月9日に授与式。
- 6月2日 発達障害支援法に関して公明党ヒアリングを受け、アメリカADA法のような差別禁止、運転免許取得におけるLD配慮等を要望した。
- 6月4日 英語塾(第二期)を開始。7月末までは随時入校可。
- 6月7日 国際福祉協会(ILBS)より寄付金を授与される。
- 6月18日 ラクラク親子タッチタイピング講座を開講。
- 6月21日 港区準備委員会で学習支援員養成事業の参考のためi-port、コミュニティカフェを見学。
- 6月25日 日本テレビ「記憶の力」藤堂高直さん出演。
- 7月3日 NPO法人えじそんくらぶにて藤堂会長が講演。

今後の予定

- 7月 キプロスにおける、さまざまな言語のディスレクシアに関する会議
英国・スウェーデン視察DXへの就労、社会サービス、当事者の組織の視察
- 8月 学習支援員(LSA)養成講座スタート
夏休みワークショップ
- 9月下旬 「愛をはこぶ人キャンペーン」へ協力
-ソープ氏来日-
-9月23日 九州ワークショップ
-10月1日 東京ワークショップ
- 10月中旬 個別支援室(仮)港区こども家庭支援センター内にオープン
- 12月3日 JDDnet 発足記念シンポジウム・成城大学



「愛をはこぶ人」キャンペーン2005年

～ほんの小さなきっかけで、子どもたちに大きな未来を～

混迷する現代、豊かな愛と夢で子どもたちの世界を満たしたい。「愛をはこぶ人キャンペーン」はそうした思いを実現するためのささやかな、でも熱い、熱い試みなのです。

マッケンジー・ソープさんはディスレクシアで苦しみながらも、たぐいまれな絵画の才能を開花させ、私達に限りのない愛を運んでくれました。

今年も「愛をはこぶ人キャンペーン」は9月後半のソープさんの来日を中心に様々な活動を展開いたします。

特別支援教育という波が今、学校を変えようとしています。軽度の発達障害（ディスレクシアを含むLDやADHD、アスペルガー障害を含む高機能自閉症）の理解と支援の輪を、全ての子どもたちの個性的なあり方を大切にす社会へと広げてゆきたいのです。

どうぞ皆様のご参加を心からお待ちしております。

「愛をはこぶ人キャンペーン」実行委員会パンフレットより

2005年活動

ソープ氏とのコラボレーション

絵画展

2005年5月2日から5月8日（実施済み）

横浜赤レンガ倉庫絵画展への協賛-売り上げの一部がキャンペーンに寄付されました

-神奈川新聞に関連記事が掲載されました



EDGEでは昨年他の発達障害関係団体アスペ・エルデの会、えじそんくらぶ、全国LD児・者親の会、日本自閉症協会と共に発達障害者に対する支援を法制化する様働きかけ、今年四月に発達障害者支援法が施行されました。今までは一般社会だけでなく行政側にも、発達障害者が支援を必要としていると言う認識はありませんでした。発達障害に関わる側も、行政側への働きかけを個別にしておりました。

今回発達障害者支援法を法制化するにあたり、集まった5団体が今後も横の連携を取り合って協力しようと言うことになり、JDDnetとして立ち上げることになりました。(12月3日に東京吉祥寺成蹊大学にて設立総会が開催されます。)発達障害と言っても何処まで入るか曖昧ですし、その特徴も様々です。そして、皆同じニーズがある訳ではありません。見た目で解りやすいタイプから解りにくいタイプまであるのは、身体障害と同じです。ディスレクシアは身体障害の視覚や聴覚障害の方に近いのです。

しかし視覚聴覚障害の方は白杖や眼鏡補聴器等で他の方へ理解していただけますが、ディスレクシアは理解して頂け無のが現状です。ディスレクシアのサポートの仕方は

2005年9月28日から10月2日

パレスホテルギャラリーにて絵画展-売り上げの一部がキャンペーンに寄付されます

(キャンペーンからの紹介状を提示してください)

ミニ絵画展 を企画中-昨年はホテルオークラ別館ロビー、六本木アカデミーヒルズ

9月23日福岡にて、10月1日港区にて子どもたちとハートを描くワークショップ開催

セミナー/シンポジウム

「障害を個性と考える時代」をテーマに企画中

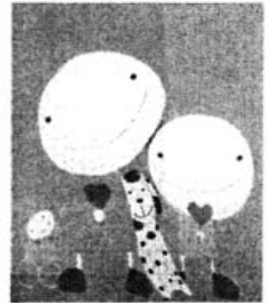
グッズ販売

オリジナルポスター作成・販売

画集、絵葉書、マグカップ販売中

※<http://www.aiwohakobuhito.jp>

で詳細をアップデートしてゆきます



マッケンジー・ソープ「ハッピー」

視覚や聴覚の方への手法が役に立つ事もあります。そして、他の発達障害とディスレクシアがあまりにもかけ離れた感もあります。現段階ではディスレクシアは脳の機能に問題がある障害であり、他の発達障害を合わせ持っている方が多い事、身体障害のグループに入らない事等を考え、EDGEでは発達障害の関係団体と協力できるところは協力していく方向でおります。教育機関だけでなく幼児期や実社会でも必要なサポートがある事が社会で認識される為にも協力して行こうと考えております。(文責：堀口)

Report from the EDGE - 第8号 -

2005年7月1日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子 東京都港区六本木4-7-14

みなとNPOハウス4F

Tel.03-5413-3356 Fax:03-5413-3358

編集 NPO法人EDGE事務局

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

emailinfo@npo-edge.jp